

【別紙 1】

第9号様式(第7条関係)

政務活動費収支報告書

令和6年3月31日

神埼市議会議長 田原 和幸 様

住所又は所在地団体の名称

佐賀県神埼市千代田町柳島189番地1

議員氏名又は経理責任者氏名

副島 英樹



令和5年4月3日付、神埼市議会第17号で交付決定を受けた政務活動費の収支報告書を神埼市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則第7条に基づき、別紙のとおり提出します。

添付書類

- (1) 事業成績書
- (2) 収支決算書
- (3) 領収証書
- (4) 領収証書を徴することが困難な場合は会派代表者又は議員の支払証明書
- (5) その他 ()



事業成績書（令和5年度）

政務活動 実施内容	<p>（実施した政務活動の概要）</p> <p>① 令和5年4月17日 岡山県小田郡矢掛町矢掛1989 旧山陽道やかげ宿 (古民家を活用した宿場町による町おこし事業視察)</p> <p>② 令和5年4月18日 岡山県小田郡矢掛町矢掛3018 矢掛町役場 (宿場町事業の当初から現在までの取組状況確認)</p>
成 果	<p>（実施した活動による成果）</p> <p>① 神埼町内には、旧長崎街道の神埼宿場町があった。神埼市において古民家を利用して宿泊施設やレストラン等を作り神埼町内の活性化につなげる計画がある。その為、先駆者である旧山陽道矢掛の宿の事前視察を行うことで今後の計画の可能性について行政視察し勉強をしてきた。</p> <p>（結果） 矢掛の宿には、宿場町としての江戸時代からの古民家が数多く存在していて昔の面影がそのまま残っている。また過去のいろいろな逸話もある。薩摩の篤姫など興味を引く話が数多くある。他方計画している神埼町内3丁目～4丁目には古民家の街並みも殆どない状況である。このような古民家再生しての計画をするならば矢掛町のようにもっと早くから交渉し資源を残しておくべきだったと思う。計画している神埼3丁目から4丁目には、今や洋風の住宅や洋風のアパート等建っているなど神埼においては、厳しく無理があるのでないかと視察に行き感じた。このことは執行部にもしっかりと伝える。</p>

事業成績書（令和5年度）

政務活動 実施内容	<p>① 令和5年11月15日 宮城県栗原市築館薬師1丁目7番1号 栗原市役所 (子育て支援事業及び移住政策の状況視察)</p> <p>② 令和5年11月16日 青森県弘前市上白銀町1-1 弘前市役所 (農業者里親研修制度による若者の農業者従事者の確保の内容)</p>
成 果	<p>(実施した活動による成果)</p> <p>① 神埼市の人口減少は、特に顕著に減少しており危惧しているところである中、子育て支援の充実による移住政策は重要な施策と思う中栗原市においては、住みたい田舎ランキング上位にランクインされており市の取組の方法計画をどのように企画立案しどのように実施されておられるか研修させてもらう為視察を行う。</p> <p>(結果) 子育て支援・移住した場合の魅力を東京・仙台にも事務所を置き住みやすさをアピールしているまたインターネットでも説明している。取組姿勢も根本的に違いすぎる参考にすべきと思う。</p> <p>② 弘前市は、農業産出額は全国5位東北においては8年連続1位特にリンゴ栽培は、面積・収穫ともに日本一である。その中で生産者の高齢化等により農家数・販売農家が減少主に後継者不足である。その為いろいろな支援策を行っている中で、農業者里親研修を行い新規の若者農業者確保に乗り出している。この制度は、2種類からなるが年々受講者の数が増加している。</p> <p>(結果) 特に農業に興味のある若者が増えてきている中でよく考えられたプロジェクトと思う。やはり体験をしてもらうことにより農業に従事することへの不安無くなりおもしろみが生まれてくる。当神埼市においてもこのような新たな取組みにより若い農業従事者の確保をしていくことが大切であると思う。</p>

【別紙3】

政務活動費收支決算書

(令和5年度)

1 収入

単位：円

科目	予算額	決算額	適用
政務活動費	240,000	240,000	
その他	0	3,058	自己資金
計	240,000	243,058	

2 支出

単位：円

科目	予算額	決算額	適用
調査研究費	15,000	187,858	
研修費	100,000	0	
会議費	0	0	
資料作成費	35,000	0	
資料購入費	15,000	55,200	
広報費	15,000	0	
事務費	60,000	0	
計	240,000	243,058	

政務活動費支出明細書

領收書 番号	支 出 年月日	内 容	支 出 先	支出金額							備考
				調査 研究費	研修費	会議費	資料作成費	資料購入費	広報費	事務費	
		合 計		187,858	0	0	0	55,200	0	0	
1	4月17日	4月17~18日:費用弁償 矢掛町:観光による地域活性化の取組み	副島 英樹	45,500							公共料金につき行程・ 費用弁償計算書を添付
2	4月17日	4月17~18日:お土産代 矢掛町:観光による地域活性化の取組み	大串製菓	703							視察先【お土産代】
3	11月14日	11月15~17日:お土産代 栗原市:移住・定住対策と子育て支援について 弘前市:農業里親研修事業について	村岡屋	980							視察先【お土産代】
4	11月15日	11月15~17日:費用弁償 栗原市:移住・定住対策と子育て支援について 弘前市:農業里親研修事業について	副島 英樹	140,675							公共料金につき行程・ 費用弁償計算書を添付
5	3月31日	日経新聞購読料(@4,000円×3ヶ月 4,800円×9ヶ月)	佐賀新聞千代田販売店 平峯 貴洋					55,200			

政務活動（調査研究・研修）結果報告書

会派名 無所属

議員名 副島 英樹

令和5年4月17日～令和5年4月18日 2日間

○1日目 令和5年4月17日 用務地 岡山県小田郡矢掛町矢掛1989 旧山陽道やかげ宿

目的 矢掛まるごと道の駅（道の駅を玄関口とした宿場町と商店街のまるごとまちづくり）旧山陽道宿場町の古民家を再生し観光資源として町の再生に取組んでいる。どのようにして古民家の再生を行い、観光地としているのか。また神埼市の旧長崎街道まちづくりの参考にさせてもらいたいと思い調査研究に参りました。

所感

神埼町の中にも旧長崎街道宿場町はあるが、矢掛のように宿場町を思わせる古民家は殆ど見当たらない。また矢掛の宿場は、道幅も神埼市旧長崎街道の2～3倍の道幅がある。

宿も昔からの大名の本陣及び旅籠を利用し古民家の状態を残して再生している。又観光客向けのおみやげ店飲食店も一つのエリア内に集中している。よくこれだけ多くの地権者の方々が協力されたことに感心するとともに、どのようにしてこのようなエリアを作られたのか感心しました。神埼市においては、旧長崎街道の再現を検討している神埼町3丁目から4丁目にかけて大名の本陣跡や旅籠あと、また古民家がどこにあるのか非常に計画自体無理があると考える。

○2日目 令和5年4月18日 用務地 岡山県小田郡八掛町矢掛3018 矢掛町役場

目的 矢掛町役場が、どの様にして古民家再生事業に取り組まれて現在のこの立派な宿場町の姿にされたのか、その取り組み状況また現在の運営状況を調査研究させてもらいたく訪問しました。現在神埼市が計画している旧長崎街道まちづくりの事業の参考になればと思い訪問いたしました。

所感

矢掛町は、旧山陽道第18番目宿場町で、当時大名は、年平均14家が本陣を中心に町全体に宿泊されていた。また矢掛町の町並みは、江戸、明治、大正、戦前の昭和の建物が混在していた。そのため全国で唯一、本陣、脇本陣が共に国指定重要文化財に登録された。町並みの景観保持と賑わい創出の為古民家再生事業

を開始された。町並みを保存しなければならぬとの市民からの要望もあり古民家再生事業がスタートした。町並みにある古民家の寄付の申し出、売却の申し出、解体の情報などの取り組みをされ財源の確保を検討。有効な財源として社会資本整備総合交付金(空家再生等推進事業)過疎対策事業債などを活用し実施。又運営主体として株式会社やかげ宿を設立。町民・町関係者180名及び矢掛町で、資本金1,000万円で設立される。総事業費719.366千円

財源 社会資本整備総合交付金114.204千円、過疎対策事業債581,500千円、町費負担23.662千円合計719.366千円。

神埼市において旧長崎街道宿場町の古民家再生をするにしても古民家自体が無い状態においてどのような形での取り組みをするのかそこから検討していかなければならぬと思う。矢掛宿は、基礎となる古民家があり全国で唯一、本陣と脇本陣が国指定重要文化財に登録されたことからスタートしている。基礎部分が有ったため、出来たと思う。しかし神埼市の旧長崎街道再現検討地区の3丁目から4丁目にかけては、町並み保存するにても保存する物件自体なくこの長崎街道宿場町の計画は、どのような事業計画がされているか知らないが実現するには厳しいものであると思う。

(別紙)

政務活動（調査研究・研修）結果報告書

会派名 無所属

議員名 副島英樹

用務地 宮城県栗原市役所 宮城県栗原市築館薬師1丁目7番1号

青森県弘前市役所 青森県弘前市上白銀町1-1

期日 令和5年11月15日（水） 宮城県栗原市議会

令和5年11月16日（木） 青森県弘前市議会

○用務地 宮城県栗原市議会

○期日 第一日目令和5年11月15日（水）

○視察の目的 宮城県栗原市

移住・定住対策と子育て支援において栗原市は、住みたい田舎ベストランキング
2021年度版ランキンが、東北エリア総合部門1位にランクイン、また20
17年から2021年まで5年連続東北エリア総合部門ベスト3にランクイン
されている。このランキンが、単なる人気度ランキンではなく、自然環境や
日常の住環境、子育て支援策の充実度の他、移住希望者の受け入れ態勢・移住者実
績などのアンケート272問回答をポイント化して、回答した全国645自治
体を比較した結果であり、栗原市がどのような方針で取組をし、どのような制度
があるのか、神埼市も参考にするべき点また取り入れるべき点があると思い視

察に臨みました。

視察先取り組み下記内容について考えて訪問

- ① 移住希望者に対する支援内容と受け入れ態勢について
- ②若い世代や子育て世代への支援内容について
- ③移住、定住施策の実績と課題について
- ④移住・定住対策と子育て支援内容の周知方法
- ⑤どのような取り組みが支持されたのか

所感

人気ランキング上位にはいるだけの施策があり下記立案施策に取組まれ実行されている。

(定住戦略室の主な取組)

- ① 移住定住サポート事業

- ・移住定住コンセルジュ
- ・首都圏等での各種移住フェア・相談室
- ・移住定住支援員による

- ② 空き家等利活用推進事業

- ・住まいの栗原サーチ事業

- ・栗駒六日町通り商店街活性化プロジェクト
- ・空き家利活用プロジェクト（空き家片づけ隊等）

（栗原市の子育て支援制度）

①子育て応援医療費助成事業

- ・0歳から18歳までの医療費全額助成

②任意予防接種の費用助成

- ・乳児を対象のおたふくかぜの予防接種費用全額助成

- ・中学生までを対象インフルエンザ予防接種費用全額助成

栗原市担当者へ委員からの質問

① 平成17年合併し栗原市になってからの現在までの人口について

（回答）合併時人口は、80,248人であったが年々減少し令和5年10月末では、栗原市人口は62,083名年々減少している。

② 同じく平成17年合併時の世帯数についても質問致しました。

（回答）合併当時の世帯数は、24,708世帯

令和5年10月末では24,841世帯で増加。

若者の流失が続く中で定住推進の結果は出ている。また年齢構成比では、高齢化率42%高齢者人口26,096人で非常に高齢化が進んでいる。逆に15歳未

- ・空き家のリフォーム助勢

③ 交流・移住プラットフォーム創出事業

- ・東京・仙台にくりはらオフィスの開設

- ・世代にあったテーマでのセミナー開設

④ 出会いサポート事業

- ・婚活イベント（広域連携での開催）

- ・結婚新生活支援事業

- ・みやぎ結婚支援センター利用促進助成

⑤ 交流・移住体験推進事業

- ・交流・移住体験ツアーア

⑥ 移住定住情報発信事業

- ・子育て支援情報 PR 事業（移住定住サイト・オンライン発信）

⑦ 定住促進事業（支援制度）

- ・若者定住促進助成金（移住・多世代）

- ・空き家リフォーム助成金

⑧ 地域おこし協力隊活動事業

- ・協力隊活動支援

⑨ その他独自事業

満の人口は5,956人であり少子高齢化が進んでいる。

移住定住政策が手厚くされ移住したくなるような政策を取組まれていることに非常に驚いた特に移住サポート事業の中で東京・仙台にくりはら事務所を置かれ都会からの若い方々に栗原市の住みやすさ等を十分に伝えるだけの取組をされている。特に驚いたのは、オンラインにての移住相談も実施されていることには感心した。

成果を聞いたところ2022年度には、東京オフィスに延べ193人が来訪（34回開設）4組・7人が市内定住となる。

移住者実績

2016年 37人 2017年 93人

2018年 98人 2019年 113人

2020年 153人 2021年 83人 2022年 58人

他にも結婚新生活事業・空家リフォーム事業など定住しやすい制度を作り栗原市に興味を持つような支援事業を行っている。当神埼市においても今一度結果の出るプロジェクトを検討し推進すべきと考え今後は視察研修したことを参考に執行部とも協議して少しでも結果の出る取組をしたい。

○用務地 青森県弘前市議会

○期日 第二日目令和5年11月16日(木)

視察目的 弘前市

○農業里親研修事業についてどのような制度でどのように運用されているか

下記項目について視察致しました。

・事業目的と実施経過について

・事業の特色と効果について

・事業実績と課題について

所感

1. まず弘前市の農業の位置づけ市内総生産額に占める1次産業の割合は、4,0%で全国の4倍で一次産業の割合が、大きい。2次・3次産業においてもリンク関連が多く存在し、1次産業が基幹産業となっている。

令和3年度の弘前市の農業産出額は、524億円全国5位、8年連続東北1位特に弘前市は、リンゴ栽培面積、8,159ha、収穫は18,26万トンでそれぞれ全国の2割青森県内の4割を占め面積収穫ともに日本一の産地となっている。しかし年々生産者の高齢化等により農家数・販売農家が減少している。主に高齢化・後継者不足であるという事が分かる。

2. 新規就労者の育成・確保が急務となっている。

新規就労者数は毎年一定程度育成できているものの、販売農家減少が多く新たな取り組みが必要になっている。

弘前市における取組（概要）

（新規就農者関係）

1, 就農準備資金 2, 農業里親研修事業

3, 就農希望者等住居確保事業 4, 雇用就農資金

5, 経営開始資金 6, 農作業省力化・効率化対策事業

① 農業機械導入 ②集出荷環境整備 ③農業用ハウス整備

（補助労働力関係）

1, 初心者向け・学生向けリンゴ研修会

2, 無料職業紹介事業

3, 農福連携の取組

4, 農業労働力雇用環境整備事業

新規参入希望者等に対するサポート体制の構築

○ひろさき農業総合支援協議会では、県外人材を含め非農家出身の新規参入希望者等が就農・定着しやすい環境を整備する為、里親農家が新規参入希望者等を受入れて実施する実践的な技術指導や地域定着に向けた取組を支援している。

(ひろさき農業総合支援協議会会員)

- ① 弘前市②弘前市農業委員会③JAつがる弘前
- ④ JA相馬村⑤JA津軽みらい⑥青森県りんご組合
- ⑦青森県農業共済組合⑧青森県農業法人協会
- ⑨青森県中南地域県民局⑩青森農業支援センター

◎農業里親研修について

農業里親研修とは、就農希望者に対し、ひろさき農業総合支援協議会が認定した里親農家が、農業研修や地域定着・農地取得等の支援を行います。農業里親研修は、短期間のトライアル研修と、中・長期間の里親実践研修の2種類からなる。

① トライアル研修

1日単位で実施する短期間（1回当たり5日以内）の体験研修。

② 里親実践研修

栽培管理や流通販売等の農業経営開始に必要な知識・技術の習得のために行う実践的な研修。

里親農家の認定 R4年25件 R5年35件 10件増

トライアル研修受講人数 R4年18人 R5年19人

件数 R4 年 18 件 R5 年 39 件 受講人数・件数ともに増加している。

里親実戦研修 R4 年度 1 件 R5 年度 7 件受講者が増加している。今、農業に興味を持っている若者が多くなってきている現状においてはよく考えてある制度と評価します。当神埼市においては、果樹園芸作物がないため園芸作物栽培に市としても支援していきコメ・麦を含めた利益が出る農業を目指していかなければならぬまた若手農業従事者を今後どのように育てていくか弘前市のような一から育てる制度の研究は、神埼市においても急務であり考えていかなければ神埼市は過疎の町消滅自治体候補となるであろう。